

# 第3回よさの地域デザイン会議（加悦地域）を開催しました

12月8日（水）元気館農事研修室で、「第3回よさの地域デザイン会議（加悦地域）」を開催しました。「よさの地域デザイン会議」とは、持続可能なまちづくりにおける公共サービス・公共施設のあり方について、住民の方々との対話により多彩なアイデアや提案を収集する場です。

第1回の「利用圏域」、第2回の「施設の集約、機能の複合化」に続いて、地域別会議としては最後となる今回のテーマは「担い手」。

過去2回にわたって意見交換し整理した内容と、岩滝地域、野田川地域を含むすべての地域のメンバーが一堂に会した全体会（11月21日開催）において、「まちに1つあったら良い公共サービス（施設）のあり方」について出された意見を参考に、再度、グループごとに「利用圏域」、「施設の集約、機能の複合化」について意見を出し合ったあと、「A 行政で運営（直営）」、「B 民間や住民団体と協力（協働）」、「C 民間や町民団体に任せる（民間直営）」、「D その他」について意見を出し合いました。

グループごとに意見の整理をすることが本日のゴール。この日のほとんどの時間を対話に費やし、4グループともゴールにたどり着きました。

参加者 住民 14人、町職員 8人、傍聴者 0人  
ファシリテーター 京都産業大学現代社会学部 教授 滋野 浩毅 氏

## 【会議の様子】



## 参加者のみなさまからの意見の一部を紹介します

### Aグループ

- ◇行政窓口は町に一つに集約すべき。ただし高齢者等が利用できるように小学校区等に窓口が設置してあるとよい。
  - ◇高齢者のために行政窓口をより近い地域に設置することは望ましいが、デマンド交通やオンライン手続き等の整備が進めば、町に一つに集約すべき。
  - ◇保健センターで子供の健診を実施しているが、岩滝、加悦の2か所での実施は効率的ではない。移動に便利な1か所に集約すべき。また子育て支援の窓口等も集約できればワンストップで子育ての相談ができるのでは？
  - ◇図書館も集約ができるのではないかと。読みたい本があれば近くの公民館まで配達してもらおう等できるのでは。
  - ◇人口減少が進んでいく段階においては、行政機能は全て集約して、1か所で全てができるようにすれば、利用者や行政にとっても効率的。
  - ◇行政機能だけでなく、民間の商業施設等との複合的な施設とするなど、人が集まる施設の整備を進めるべき。そのために大前提となるのは地域交通の整備や手続きのオンライン化。
  - ◇何もかも集約することが望ましいことではない。子供の遊び場や地域コミュニティの拠点は地域に残していくべき。集約すべき施設と地域に残す施設を見極めるべき。
  - ◇財政的な問題で施設を減らしていくことはわかるが、加悦地域には利用が少ないがよい施設がある。それらの施設に民間の活用を促し、人が集まる仕掛けをしてもよいのでは。
  - ◇大江山運動公園は良いところだが、手入れが行き届いていないように思う。阿蘇シーサイドパークは加悦からも多くの人が行くので、しっかり手入れをして、阿蘇シーのようにキッチンカー等が出店してにぎわうイベントをして人の流れやお金を落とす工夫をすべき。
- 古墳公園も素晴らしい施設だが、有料のため人が来ない。地元の人が来ない公園ではなく、地元の人が気軽に利用できる施設にすべき。また、双峰公園も自然が素晴らしい施設だけど、トイレの改修や土砂撤去すればもっと利用してもらえるし、親水公園も飲食店の出店・キッチンカー等のイベントがあればもっと盛り上がると思う。行政・民間が協働して、今ある施設に磨きをかけて、ヒトやお金が還流する仕掛けをしていくべき。

### Bグループ

- ◇地域公民館を拠点に各種サービス（保健・医療、高齢者、子育て）を受けられるように、職員派遣などで機能強化することで、旧町や全域にもある同様の施設は廃止できる。
- ◇図書館、スポーツ施設、集会所（大）については、全町域で1つとし、一つの施設に集約することで利便性が向上する。
- ◇担い手については、民間直営は現実的にはほぼ不可能。
- ◇行政施策により民間直営につながるような動きになるとは考えられない。もっと民間は、シビアで単純に動く（人が集まっている→儲かる可能性大、人が集まりそう→不確定要素あるので不可）

## Cグループ

- ◇施設の集約・統合には、公共交通の整備・充実が重要（無ければ出来ない）
- ◇民間や住民団体との協力を得るには、公共交通とオンライン対応が整う事が重要。
- ◇行政は基幹として1つ直営。窓口を公民館で対応できるように、オンライン対応や操作援助などができるように協働。そして地区公民館でも集約できる所があれば集約しても良い。
- ◇学校+子供の居場所（学童：小学校かその近所）
- ◇学校のグラウンドもオンラインで予約対応か、町内で統一できる事も必要。ただオンライン予約にすると一気にとったり外部者の利用が増えたり町民利用ができにくくなるのではないかと、デメリットも考えて対応が必要。（キャンプ場も同様）
- ◇子どもの事は、家から近い所での対応がうれしい。
- ◇産業・観光は民間に任せる。

## Dグループ

- ◇地区公民館の利用をもっと活発に！地区公民館を核として人の集まる場に。元気な高齢者や学校の下校時間以後の子供の集まる場としての機能を持たせ、親が仕事が終わる18時ぐらいまでの時間を過ごす。囲碁や将棋など高齢者の得意分野を子供へ教えるなどコミュニティの創出ができれば。
- ◇一人ひとりの町民が利用頻度の低い行政窓口は一つでよい。しかしながらオンラインで申請し、郵送で受け取れるシステム等の整備は必要。また、ひとつになった行政窓口に行く交通サービスの充実も必要不可欠。
- ◇グラウンドのナイターは町民利用が多い。一つのグラウンドに對面でナイター設備があれば2つのグラウンドでできていたことが一つのグラウンドに集約できる。
- ◇集会や音楽施設も町には300人規模の施設が二つあるが、交通手段を用意できれば町域にひとつで賄える。300人規模のイベントを再々するイメージがわからない。それ以上のキャパは他市町へ行ってもらえればよい。
- ◇文化・芸能については「動かせない施設（文化施設等）」以外は既存施設に集約し、町内に点在するのではなく、ある地域にまとめる。（全町域へ）
- ◇産業観光施設はできる限り、民間が自走できるようにサポートし、ゆくゆくは民間譲渡を検討する。
- ◇図書館は全町域に一つでよい。地区公民館で予約・返却できるシステムを整えるのが前提。中途半端になってしまうと人がつまらない。宮津や福知山の例を参考にする。

問い合わせ先

よさの地域デザイン会議事務局（与謝野町企画財政課）

電話 0772-43-9015（直通） FAX 0772-46-2851

メール kikakuzaisei@town.yosano.lg.jp